

2020年度 ユーアンドアイ事業実績報告

◇事業所運営報告

■就労継続支援B型事業 定員40名

◆感染症（新型コロナウイルス）における非常事態宣言下での感染防止対策と、行政からの通知に基づく取り組みについて。

行政の通知により障がい福祉サービスにおいて、最大限の感染防止対策に取り組みながら運営を継続するように要請されています。また、昨年と同様に在宅での支援の利用については継続して運用が可能ではありますが、2021年度より、新型コロナウイルス感染症の状況を問わず、利用者の希望に基づき在宅での利用が可能となっております。その際事業所として在宅利用についての支援内容を運営規定に明記(変更手続き)したうえで、支給決定されるようになっております。現在におきましては、7・8名ほど新型コロナウイルスを理由とした在宅支援を継続して行っています。

感染を防ぐための対策として、職員・利用者ともにマスクの着用、手洗いや手指の消毒の励行、施設内の換気、施設内の設備(主にドアノブやエレベーターのボタンなど)の消毒の徹底を引き続き行っております。また、施設内の密集を軽減するため、通所を希望されている利用者にも可能な限りの時差通所をお願いしております。

◆活動報告

2020年度において、男性1名、女性4名が新たに利用を開始されています。退所者は一身上の都合を含め6名退所されています。定員40名に対して40名(利用登録者)で4月を迎えております。新型コロナウイルス感染症の影響で、新規見学者の希望が例年と比較して少なかったことに加え、長期利用されていた利用者を含め退所者が増加したことで昨年度より減少しています。

利用者の生活支援として、日常生活状況を確認して必要な支援と、訪問看護事業所(ジョイ訪問看護ステーション堺)の看護師の訪問を継続し、体調管理及びメンタルケア支援を行うとともに、加算算定しております。また2021年度からは報酬改定に伴った変更があった為、より医療ケア(生活習慣の指導や発作等の対応など)を重視した体制に変更しております。

授産活動においては従来通り軽作業中心に印刷作業もあわせて行いました。授産売上が663万円。工賃等の支出が723万円になっており、時間の短縮や感染症の影響も出ております。また、就労活動費繰り入れとして施設より赤字分の補填(100万円繰り入れ)も行っております。

2020年度は、感染症の影響で日帰り研修旅行を含めた野外活動につきましては、感染防止の観点から中止となっております。例年クリスマス会としてイオン様のご参加で開催していましたが、本年度は、プレゼントをいただくにとどまり、結果として施設内での開催となりました。他、阿倍野防災センター職員による立ち合いのものと消防・避難訓練、オンラインによる集団指導・人権研修を行いました。

◇授産活動の報告

■ 4階 パソコン事業部(一部軽作業) 利用者 15～17名 職員 3名配置

作業内容：パソコン操作訓練、軽作業訓練、請求業務等の事務作業および訓練、冊子印刷、チラシ、エコ名刺印刷、年賀状印刷、ホームページメンテ等。軽作業を6階の作業を分担。

パソコン事業部として、昨年度と同様に名刺・年賀状を中心に外部より発注を受けたチラシ作成などを行いました。PC操作訓練についてはWord・Excel基礎学習のほか、illustratorのデザインソフトを使用している学習をされており、スキルアップできるように支援を行いました。また、ユーアンドアイのホームページの作成も行っております。

軽作業に関しては、E-kit・川本ビニールや夢企画など、委託された作業を6階作業部と分担して行いました。

新型コロナウイルス感染症が広がる中、重症化リスクが高い利用者3名が在宅での利用を希望され、PC操作訓練を中心に支援を行っています。

担当責任者：横井 英司・大久保 強志

■ 5階 軽作業部

利用者 14～16名 職員 2名配置

作業内容：検品、包装、梱包作業、袋詰め、シール貼りなど(つるや製菓からの委託作業)

昨年度と同様に軽作業としてつるや製菓さんの作業を中心に行いました。感染症の影響もあり前年度売上対比で2割ほどの減少となりました。

利用者につきましては、在宅での利用を主体とした方はおられません、重症化リスクなどに対して不安を強く持たれている方も多く、7名ほど在宅と通所を併用した利用を希望されております。

担当責任者：大久保 菜穂子

■ 6階 軽作業部

利用者 12～13名 職員 2名配置

作業内容：商品の検品、梱包、箱折作業など (E-KIT、川本ビニール・など委託作業)

軽作業として委託作業を中心に行っております。作業量については時期による変化はあるものの平均しておりますが、全体的な売り上げとして昨年度に比べ1割ほど減少しております。

利用者につきましては、感染症による重症化リスクが高いとのことで、1名在宅利用を主体に希望をされておりますが、3名ほどの利用者が精神的な不安が強くなったときに在宅を利用するにとどまっております。

担当責任者：石飛 辰哉